

# 心のことだま

天の巻 心和源典 より

和源鷹壤 著

# 「はじめに」

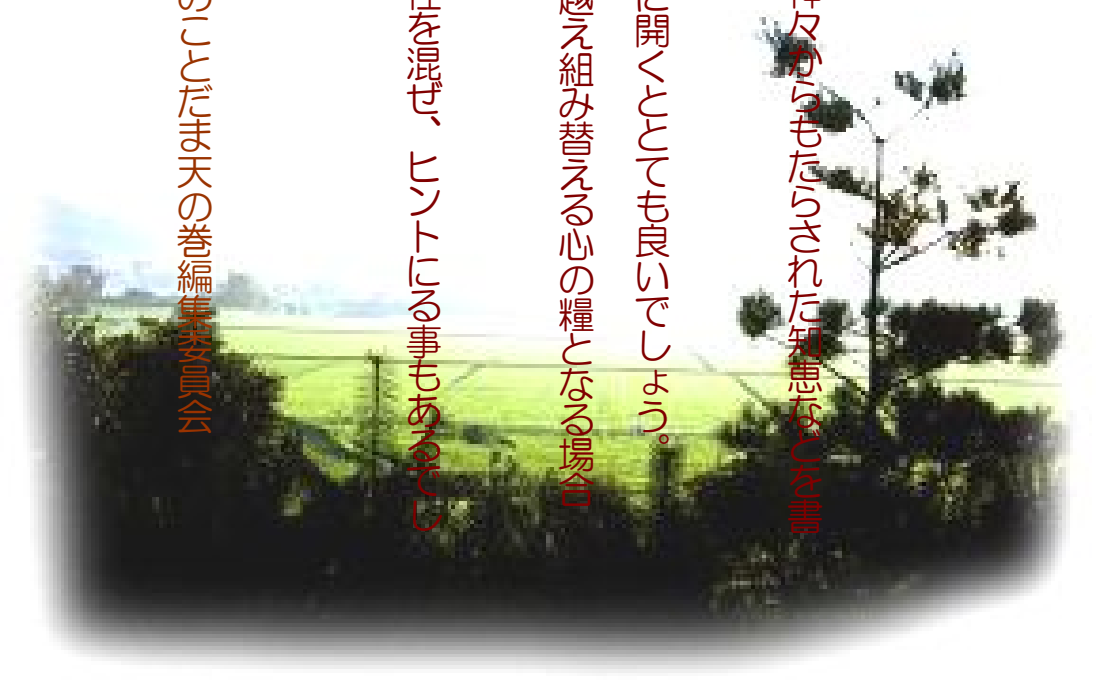
心のことだま天の巻心源典は、様々な気付きや神々からもたらされた知恵などを書きとめておいたものを編集し公開しています。

ふと立ち止まったときや、人生に疑問を持った時に開くととても良いでしょう。

また違った視点を持つことは、人生の節目を乗り越え組み替える心の糧となる場合があります。

変わり時には、今までの自分の考え方に少し多様性を混ぜ、ヒントになる事もあるでしょう。そういった一つになれば幸いです。

日本文化や魂や心を大切にする人のために **心のことだま天の巻編集委員会**





生きていられることに感謝できるようになったら

心の力が抜けてくる。

力が抜けてくれば生老病死の理も自然に感じる。

おかげお陰で生きていねば苦しいことも感謝できる。

神様に感謝の生き方は病気も死ぬる事も忘れるほど気にならぬ。

病気も死ぬる気にならなければそれ以上、何を望むのか

神向きの生き方に欲はいらしません。



信仰しんこうとは自我じがに陥おちいらないことだ。



自我じがに陥おちいっている自分おれより高いもの、人間にんげんより高いものたかを認めたがらない。  
よへよく観察かんさつしてみよ。

空なんじを飛とぶ鳥とりは汝なんじより高たかみを飛とんでいるではないか。

自分おれより尊うぶいものやすばらしい物ものはいへんどもあるわ。

上うへも下したも右みぎも左ひだりも・・・いへんどもあるものぞ。それが自然しぜんである。

神かみを信しんじるとは人間にんげんとして一番いちばん自然しぜんに帰かえる事ことなのだ。



苦は九であり十の位の二つ前

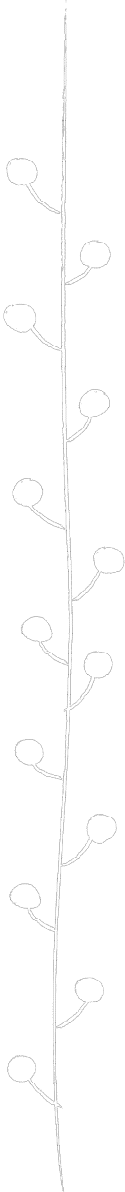
難儀なことは苦く九くなれば裸はだか苦く樂らくの前の峠とうげぞ

苦の衣いがとれて心素直しんすぢに裸はだかになることが樂らくの意味いみぞ。  
ゆめゆめうたが

夢々疑うたがうことなきよつになされませ。

疑うたがいは違ちがいを得うる事ことぞ。

神様の道違かみさま みちちがえるなよ。





心いしも清めていただかれよ。

人の悪しき処の一尺は良く見えるもの。

己の悪しき処の一寸は見えぬもの。

神の道の者は己を反対にいたしますのじや。

人の悪しきと己の悪しきと一尺見れば一尺見れば

おのづから仲良へ手を取られるのじや。

心ねなや己の心と己の心とをさへついでにせよ。

いれも神向きの生きている者の神様のお陰。





むがく きん ひら  
無学で悟りが開かぬことはない。

しん まこと そな  
心に真が備わるにと、これが要ぞ。

悟りとは本質や真理から離れてくる差や二重性。

神々を知ることが第一歩。





ただ おし み  
正しい教えを身につけるには

覚者・先達の導きと兄弟姉妹弟子がいて

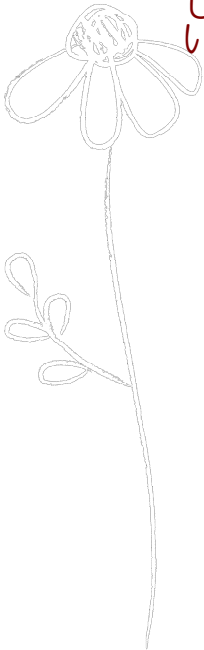
叱咤激励し合う環境があることが望ましい。

独学においては常に独学の言悪・・・偏りが出る。

無に偏ってもいけない、理屈に偏ってもいけない。

欲望を肯定しすぎてはいけない、否定しすぎてはいけない。

中庸を会得するのは簡単な様で難しい。







がくもん ぶ  
学問に振る回せむるなよ。

まじふ  
真のなご学問は暗闇。

めごん  
出口見えぬ迷路。

こころ  
心、世むるなよ。心が一で学問が二。



学がくがあつたからとて人を助けれるわけではない。

まことがなければ知識ちしきも役やくに立たぬ。

心が備いそわらなくば言葉ことばは生きぬ。

悩なやみは心こころで。

心の真まことが備いそわらずば悩なやみは解とけず。

心こころには心こころを以もつてする、それが道理道理で。



魂たましいが古ふるいといっても万事万端ばんじばんのうではなく得意とくいなる分野ぶんやがある。

前世ぜんせいにおいて研究けんきゅうした経験けいけんを

今世こんせいに持ち越もしてさらなる飛躍とせつをとげる。

古ふるい魂たましいは何故なぜにか公おおやけに仕え奉たてまつる感かん覚がくを

生うまれながらに備そなえている。

得意とくいなる分野ぶんやで世せの中なかを善よなる方ほう向きょうへと導みちびくであらう。





神性復古の道の一つは和源教えを日々の生活に活用するじゃ。

たまごまな苦は天より汝への戒めなるぞ、後の幸の贈り物。

苦しみの意味を妨げるのは汝の曇りたる眼ぞ。

苦しみの意味と天の意思を妨げるものはこの世になし。

心を石のように意思硬くなせるなよ。

心は芯ぞ、真(しん・まい)ぞ







みそぎは儀式のみではない。

心のみそぎ、因縁のみそぎ、

生き因縁のみそぎ 家のみそぎ前世のみそぎもあるなり

深き業の因縁は神様、奉りもろもろ神勤めなすじゆで、汝の

行いと心が天地の神の理にかない

神様が慈悲を垂れ給うぞ。

一し無きまことのこころで神勤めなせば

鬼神おもあわれに思わせるなり。



魂たましいの年齢ねんれいは現世げんせの年齢ねんれいと全く一致まったくしない。

一致ゆえしないが故みきわに見極めけいがんには慧眼ひつようが必要ひつようである。

慧眼ちがは魂ちがの違いちがいたる分ちがという尺度ちかどを研究ちかどしていけば

その一端いったんが開ひらかれる。

古い魂たましいとであつたとき、

不思議ふしぎと懐なつかしく暖あたたかいものに包つつまれるであらう。

考えるかんが以前のいぜん感覚かんかくを信しんじるが良よい。



かずみな おしえ  
和源の教えの基礎は生活修行

これを読んでいる今一瞬も人生という修行の場の中にいる。  
寝ているときも人と話をしているときも、

ただ歩いているときも修行なのである。

自己を観察せよ。常に観察せよ。

観察して自分に今起っていることの意味を探れ。

慢心に捕らわれる事無く、  
諧謔に捕らわれる事無く

中庸の自己を確立すべし。

その確立には正しい教えを学び、正しく自己を律し

ながら遠く高いところへ到達させるが良し。





かみこ  
神勤めも様々あるが、  
かみまな  
神学び、  
ほうし  
奉仕、  
でんまほう  
伝教、  
きしん  
寄進の四柱なり。

この四柱は五因縁の業を解き行くものなり。

一はすべてに関わってゐるが、

かみまな  
神学びは心のみとぎも生も因縁のみとぎに強<sup>い</sup>く

ほうし  
奉仕は心のみとぎも因縁のみとぎも生も因縁のみとぎに強<sup>い</sup>く

でんまほう  
伝教は心のみとぎも前世のみとぎも家ののみとぎに強<sup>い</sup>く

きしん  
寄進は因縁のみとぎも家ののみとぎも前世のみとぎに強<sup>い</sup>く。それそれかくの如<sup>い</sup>く。



子供の純粹無垢な気持ちは美しい。

大人の分別心はずばらしい。

純粹無垢な心をいつも磨き

分別心を養って行くのが良い

片方だけでは片手落ちであり完成しない。

純粹無垢だけではやがて自己中心に陥り、

分別心のみではその者、人間は冷たい。

二つと無く二つとなく。





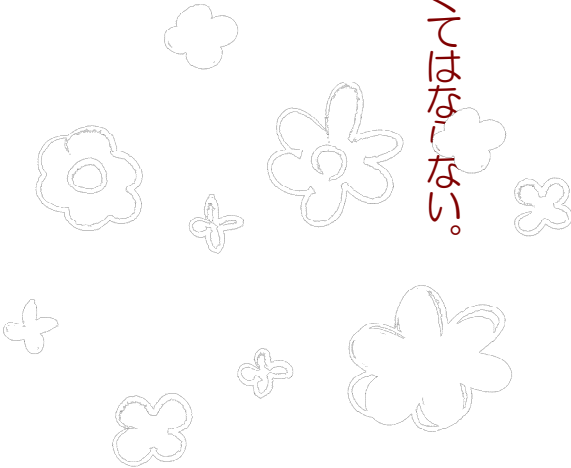
公おおやけに仕えるには己おのの繁栄はんえいのみを願ねがっているゆいで

その偉大いだいさを知ることも出来ない。

自己じこの幸あせの多おほくは物質ぶつしつ、知識ちしき、人ひとが己おのの近ちかくに

存在じゆんざいしている状態じょうたいである。

それらを生いかすには個こという殻からを破やぶらなくてはならない。





だんしいっしょう  
男子 一生の仕事

一生そのみずから定めた事に仕え奉る意義の格闘は

人生として最上のもとなろう。

これ成さんには、

公に仕え奉仕するといふ大きな

気概が無くては続きはしない。





一生、  
取り組んでゆく仕事に出会うには

自己を変化させても揺るがない器が必要である。

「一生の仕事」をこなしたものはおもしろい。

今までの自己のかたちの外にあることが多い。



小人は道理や義より利と保身に走る。

怒りを感じたならその怒りは道理であるか？

それとも身の保身であるか？

やあ手を胸に当てて考えてみなれど。

※小人こじではつまらない人の意味であり子供の意味ではありません。

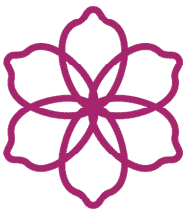


自然しぜんを破壊はかいするだけの文明ぶんめいなら

ていたいまた すいたい  
停滞ていたいまた又は衰退すいたいした方がほうよい。

しかし自然しぜんと共存きょうぞんできる文明ぶんめいなら発展はってんした方がよ良い。

今後人類こんごじんるいが成なさなくてはならないのはこの課題かだいであらう。





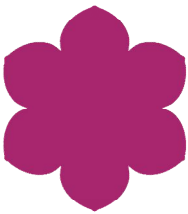
すばらしい人の良いところをまなぶことが出来ないのは

自己におそれがあるからだ。

この恐れは自分を見つけていないもの。

恐れがあるのは人の器、足りざるなり。

精進、精進、精進あるのみなり。







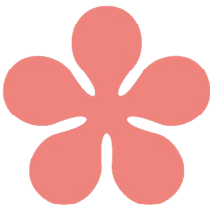
受け入れることができるのは

中心が揺らがない自信があるのだ。

受け入れるとは

中心が揺らぐずに受け入れるが上なり。

中心とは魂であり善良な心ぞ。





真まっ白しろ垢あかな心こころにも色いろ々いろああるが

ほんとうほんとうままじまじ白しろは

かみさまかみさまししんししんかおむかおむ  
神様・心神に顔向けできるものが本物ほんものぞ。

しんじんしんじんのじぎょうのじぎょうぞ。  
心神とは良心の事ぞ。





心は無形にして有形

無いようであり、あるようで無い虚空でありながら体内に存在する。

心はある時、鉄より硬いもの。それは想いであり執着だ。

虚空のよつに形も定まらぬものである。

人生の道にふさがる岩のよつになつてしまふ。

形が無い故に時として金剛石と同じなのだ。

金剛石もすぐびる透明で硬いが火で炭になつてしまふ。

心の本質を知つたとき、執着という幻想も

今までの限られた常識という事を知るであらう。



わせていただく心を養う。

わせていただく心は驕りの心を清める驕りの心を抱いている。

どんな善意を持ってしても作為を感じさせてしまう。

驕りの心を持っていると作為的ではないはずだが作為なのだ。

人は素直さを感じる事が出来る。

素直さを引き出すには謙虚さを身につけなくてはならない。

謙虚さの徳を積むには、わけていただく心を養うのだ。

もちろん、わせていただくという言葉も最後には出さなくなるだろう。

それが本当のわせていただく心の養いである。



心持よければ福来たる。

心悪しきなれば禍来たる。

己が生き様は己で決めている。

汝の心の気付かない深みが、運命を引き寄せている。

自己を見つめ改心せよ。

自己を見つめ幸をなすべみと言る。





かみ みち しんめいじ ひつ  
神の道の修行の一つにある物

それは柔らかな笑顔である。

無理にしているは柔らかくなならない。

いたわりの心をつちかづべし。

相手を思いやりいたわりの心を持って

その気持ちで相手に接するのだ。

その時その場所で貴方の器を試せるのだ。そんな機会はまだとないのだ。

一期一会・・・その場所その時しかできなうじゆ

それをわけていただくのであふ。



あいて じぶん おな  
相手は自分と同じであらうか？

せいしんてき にくたいてき よわ  
自分より精神的に肉体的に弱いかもしれない。

ひこ かちかん せつ  
そんな人に自分の価値観で接していいのだろうか？

よわ  
弱い人には少し待ってあげなくてはいけないだろう。

いじゆ ひびく かつ よ  
待って心の開くのを待つのが良い。時として待ってはいけないときも在る  
あ  
もの一歩一歩の成長を見守ってあげよう。

なみび いじゆ  
それがお導きの心だらう。



つかもつとすねばすねるすつすり抜けぬ

力を入れれば触れる事もかなわず、大いなる天道に真つ白無垢に生きるよき

つかもつとすねる心も、力を入れよつとすねる気持ちも無く、ただそれをおこな

えば、それが手の内に在る

求めもの器の足らざるを、

心奥は知っていて力み無理が生じる

器の分が足りねば力む必要もない。





なんじ かみさま わす  
汝が神様を忘れなければ

かみさま あなた わす  
神様は貴方を忘れはしませぬ。

なんじ きずな きつな  
神様と汝の絆あり、絆とは「気綱」ぞ

き  
こいぞ言ひ「気」とは心の事ぞ。



だませぬものが二つ在る。  
ふた あ

かみさま りょうしん  
神様と自分の良心である。

てんとうま  
神様、お天道様は全てを見通しておられる。

なんじ なかこ ししん  
良心は汝の中の心神ぞ。





人徳としての器は・・・

器は素敵な料理を盛るために在るのです。

素敵な料理を載せる器となりましょう。

色鮮やかな料理を引き立たせる真っ白の器へと・・・

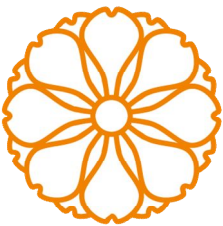


人生は負け知らずではいつの日か

人間としての成長が止まってしまおう。

人間力の大きな人と出会ったとき

あなたは素直に人の器の大きさを感ずるにじがでまなるか？





かみさま やわ  
神様は柔らかな心を好かれます。

うたが  
人の事を疑ってばかりいる人は

とげ  
心に棘がありすぎて近づけません。

「こわり かんさつ  
自然な理を観察して自然な心を耕そう。

あれち よ たね  
荒地にいくら良い種をまいても芽は生えませんが

たがや うん  
よく耕した心に良い種は実ります。

ひまひま  
実りは幸呼ぶもので。



ながく  
長い苦しみの末に  
すえ

たどりつく見果てぬ夢の  
みは ゆめ

まぶしさはつねに 常に 心と魂を純粹無垢でいさせてくれる。  
つね こころ たましい じゅんすいむく

苦しみを恐れることのなかるべし、苦しみは人生最大の師なり。  
おそ じんせいさいだい し

いにしへの賢者も生の苦しみにおそわらじ。  
いにしへ けんしゃ せい

苦しみは天の導き悩みを悩むな、  
あまのみち なや

苦しみを観察するのだそれは何であるのか知るじゆ。  
かんさつ しゆ

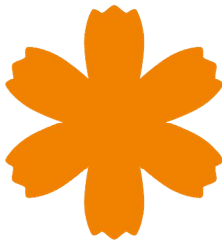


人を<sup>み</sup>看るには<sup>ばんねん</sup>晩年を<sup>みよと</sup>みよと<sup>こてん</sup>古典では<sup>い</sup>言<sup>う</sup>。

晩年<sup>れんぞう</sup>とは<sup>なかいま</sup>今の<sup>い</sup>連<sup>つ</sup>続<sup>つ</sup>たる<sup>い</sup>中<sup>すえ</sup>今<sup>すえ</sup>の<sup>すえ</sup>生<sup>すえ</sup>き<sup>すえ</sup>様<sup>すえ</sup>の<sup>すえ</sup>末<sup>すえ</sup>の<sup>すえ</sup>事<sup>すえ</sup>である。

今<sup>いま</sup>の<sup>いま</sup>生<sup>いま</sup>き<sup>いま</sup>様<sup>いま</sup>は<sup>いま</sup>ど<sup>いま</sup>の<sup>いま</sup>よ<sup>いま</sup>う<sup>いま</sup>な<sup>いま</sup>晩<sup>いま</sup>年<sup>いま</sup>を<sup>いま</sup>引<sup>いま</sup>き<sup>いま</sup>寄<sup>いま</sup>せる<sup>いま</sup>の<sup>いま</sup>ど<sup>いま</sup>あ<sup>いま</sup>ら<sup>いま</sup>う<sup>いま</sup>か<sup>いま</sup>？

今<sup>いま</sup>を<sup>いま</sup>生<sup>いま</sup>ま<sup>いま</sup>て<sup>いま</sup>い<sup>いま</sup>る<sup>いま</sup>か<sup>いま</sup>？





人を憎<sup>にく</sup>んでいないか？

いたわる気持<sup>きもち</sup>ちを忘<sup>わす</sup>れていないか？





困こまったときの神頼かみだのみも良いなれど、

困こまったときはすぐに遅おそくともなうぞ。

かみさま なんじ すく だんと

神様も汝を救う段取りいな。

しねひいふ

しんごん

常日頃の信心あねば困こまったときも心は安やすらかなる。

安らかな心に神の御みい厳いあり。



疑う心が言葉に棘を宿す。

言葉の棘は相手の心に突き刺さる。

いつまでも抜けることはない。

なぜならば目に見えない棘だから・・・

本当は傷つけたくは無いはずなのに





かみさま  
神様はいつもお参りせよとが、  
まい  
会員なれとは申されません。  
かいいん

もちろん権現たる大祝もいません。  
ごんげん おおほつり

しかし神様はちよくちよく御参りに来られるものに神徳をくだされる。  
おまこ ぐんとく

人においても良く顔を出すものはかわいいであらう。  
よ かお

かみさま  
神様もおなじぞ。





信仰しんじうをしていゝからいゝって悪い事がなくなるわけではない。

信仰しんじうは修行場しゆぎやうばうとしての道みちしるべなり。

道みちしるべに従したがって行はければ早く物事ものごとが解決かいけつする。

解決かいけつが早はやくなるとはいへ、修行場しゆぎやうばうとしての汝なんじの宿命しゆめいは変かえられぬ。

変かえられぬが神様かみさま、ご先祖様せんぞさまにお祈りおかじして御蔭おかげを受けてみよ。

御蔭おかげを受ければ今いまある悪あくしき事ことの意味いみわかる。

意味いみわかれば自然しぜんと解決かいけつに向かむうものぞ。辛抱しんぱうに信心しんじんすればいつの間まにか御蔭おかげあるものだ。



傲慢しじまになっていないか？

納得なつていさせてくねとか想いおもを伝えつたなへとはどうか・・・

もちろん当たり前あたりまえのことだけねども、行き過ゆぎは相手あいてが辛むづいだけだ。

まずは人間にんげんより偉大いだいな存在そんざいを認めみとめて

過ぎすたる自我じがを抜ぬいて行いってくだされ。



人とは何で在るのか判らなければとてもではないが

自分の人生などわかるはずもない。

なぜならば貴方も人なのだから・・・

人としての宿命を理解したなら、

物理的なものより、もっと意味が深くて希望が持てるであろう。

それは欲望の外に在るもの・・・

それが出来たならそれは負けではなく、

魂の示唆にほかならない。



あなた  
貴方は自分を知って欲しいだけなのか？

あいて  
相手はどつども良いのか？

ひと  
それでは独りよがりだろ？その気持ちもわからない訳ではない

きじ  
気付かないか？寂しい気持ちに

うった  
どつこが、寂しい気持ちが訴えかけている

うじん  
貴方の心のどつこから

しめ  
心を鎮めて聞いていらん。はたして、出来るのであるのか？

とつたじ  
到達できるものであるのか？疑うことばかりじゃ



へいあん めざ  
平安を目指しているのに、  
なぜ  
何故だろう？

わす  
忘れてはいないか？ 信じるというのを・・・

うたが  
疑うことも聞くことは出来るんだけど・・・

おび  
聞くことも出来ないくらい怯えているのか？







人生じんせいに問題もんだいがあつて相談そうだんするじよは良いじよだ。

問題もんだいが在るじよは

今までのやり方かたに問題もんだいが在るじよが多いのだ。

そのじよを指摘ししていされたからじよない。

一番最初いちばんはじめの人生の問題もんだいを探るじよ目的めくから外はずれたら何を  
しにいったのかわからない。

人生の事を考える時、先まずは話を聞いてみようよ。



心地良しと言わねえし  
こころよ　い

人間心くすべらわて浅い感謝する。  
にんげんしん　あさ　かんしゃ

まっすくな心に直せんと、心のゆがみをいごと  
かみさま　こころ　なま　もの　ふまゑ　おこ  
神様の御用をしている者に不満を言い怒る

これは大きな考え違いである。  
かんが　ちが

心のゆがみ治してもらえば一生の物である。  
なま　いっせい　もの  
これお徳也。  
い





おかげお陰かげで生きてみよ。

神様かみさまのお陰はありがたいもので。

かんしゃかんしゃ感謝で生きておねば、

悪しきことの意味あ い み し だ いが次第にわかっ

みずから犯おかした罪つみ・咎とが・穢けがれを祓はらい清きよめるお陰かげいた

お陰お陰で生きてみよ。

くゞじくゞじ申まうしておくと

和源かずみなの神様いたわり多いゆえな。



精を出して御参りをなさい  
せい おまい

和源の神の社に詣でて  
かすみな かみ やしろ もつ

心に徳を積んで帰りなさい  
こゝろ ちか たく かつ かえ

遠くも近くも苦勞した分、徳を受けるぞ。  
とほ ちか くろう ぶん とく うち





かみさま しゆく にんげんしん  
神様のお仕組みは人間心にてわからぬこと多いぞ。

かんが じゆう  
人間心で考えること神様に通じぬこと多いぞ。

ひと ひこ ひこかみ かがみ じこ めぐまじう  
人は一つの人神は鏡の如く明鏡ゆえ

かこ みらい な じかん な  
過去も未来も無く時間も無く

すへ うつ おしく  
全てを写し御仕組みされる。

りかい たましい おう  
人間心で理解せず魂で応じてみよ

たましい し  
魂は知っておるぞ。





かみさま あなた じんせい むた ようい  
神様は貴方の人生に無駄を用意しておられません。

おせ じゆん すま  
無駄と思う時、心の隙があるものぞ。

じじゆう いみ  
事象の意味を考えてみよ。

なんじ しじゆう  
汝の修養になるであろう。

おお ちい  
事象の意味にも大きなものと小さなものがあるぞ。

ひこみ  
よくよく真っ白な瞳で見つめるが良い。





信仰しんじゆして何もないと思つたらしばらく信仰をやめてみなさい。

たちまちにお陰かげがあるかわかるぞ。

お陰は日々いただいていたこと身にしみなすぞ。

よへわかなす

信仰とは自分を知ることから始まるぞ。





物は消えていく道理なれど信心は消えぬもので。

信心は末の世までも子々孫々まで汝の積んだ功德は残るぞ。

来世にも残るぞ。

功德は消えぬが、財産は消える。

このこと良く覚えて信心なされよ。

信心とは神を見つめ自分を見ることぞ。





人をだまして平然へいぜんとしている世よの中なかなねど、だまして騙たまされるのが理ことわりぞ。

かすみな おし  
和源の教えは人を助けて人に救すくわれる道みちぞ。

人を助けるにはしっかりと自分磨じぶんみがきなさねばならぬ。

自分磨じぶんみがき出来ておれば人のつく嘘うそも見破みやぶる力ちから、神様かみさまが授さずけてくださる。

だま  
騙たまされたなら自分の業ごうを祓はらうてもうったと思おもえ。

その後は信心しんじんに隙すきが無なかったか考かんがえてみよ。

騙たまされるのは信心しんじん足たらぬ証し拠よぞ。

信心とは神を見て自分を見続けることぞ。



神様のお使いつかのふりして神民おおみたからだます者の多きこと何と悲かなしきかな。

これを読める神民おおみたからは縁深えんふかき者ゆえ大丈夫たいじょうじであろうが、

しっかと目を見開みひらいて見てくださねよ。

魔まのお使いもおるでな。

神の教えをいただく者は大おお神の御み殿いづで

護まもってやるゆえしっから信心しんじんの心を保たもちなせよ。





信心しんじんの始めはじは不安ふあん多いものぞ。

今までかみかま神様かみさまの言ことうきと聞きかず暮くらしてきたでな。

思おもつてみよ。

言ゆうきと聞きかぬ子こが改心かいしんして親おやの言ことうき事こと聞きくようようにななった事ことを・・・

神様かみさまの言ことうき事ことはももつと深ふかいぞ

不安ふあんは神様かみさまの言ことうきと聞きかぬ間まに溜たまった

穢けがれつみぞ、罪つみぞ、心こころして乗のり越こえてくだされ。



かみさま やくめ  
神様のお役目いただく者は様々なお試しあなご。  
さまおなご ため

お試しきついなご

つか みたま  
お使いの御魂ゆえ、乗り越えてくれるものと信じておなご。

おおかみさま おおほつり  
大神様と大祝は見ておるごよ。





はじ  
恥を恥と思えばなんじ 汝の成長せいちやうあり。

恥を恥と思わぬじゆん 所業じゆんぎやうこそ恥はじなり。

恥を知る事はひんべつしん 分別心そだを育てる。

はく  
育ゆみ行くが良よい。

なんじ  
汝なんじが生いとなの営いとなみを



心こころにいぶいぶいぶいといかりわ湧わくらば

おのれ つみ おも おも なお き 己おのれの罪を想おもいて思おもい直なおし聞ききななおして神かみに許ゆるしを請こい願ねがうべし。

己おのれがいたらさに湧わく怒いりを恥はじと思おもえばその恥はじを觀みて大神おおかみにひれ伏ふし、

人ひとの至いたらなさを見みたらば、

その本人かに代かわりて恥ゆるの許ゆるされんこと汝なんじの慈じ悲ひなる心こころを持もちて祈いのるべし。

慈じ悲ひなる心こころは汝みたまと人すくの御魂みたまを救すくうものなり。

人ひとを見みて己おのれが心こころも見み直なおしてくだされ。



難儀なんぎな時期じきのお示しめしは二つある。

一つは心みなおの見直みなおし

もう一つは神かみのおためごと。

その二つ混まぜてとらえるなよ。

素直すなおな心こころにて今いまをみそなわしめよ。







はいと言えぬ心が未熟のあらわれ。  
みじゆく

未熟ゆえに苦しみ多し  
ゆゑ

なんじ こころ みなお

汝の心、見直す時ぞ。





宗しゆ教きやうに知ち識しきを学まなびに来きる浅あはかき。

宗しゆ教きやうに知ち恵えを学まなびに来きる奥おく深ふかき。

神かみの道みちは命いのちの意い味み、深ふかめる事ことで。





ただ 正しい言葉や文章には正しい神が宿りおわします。

ひのまつらと ひのまつらで もぎ 心を護りなせ。

言葉を害意酷に汚すなよ。

やまと人には日ノ本の国の言葉が一番で。





言葉わら悪わければ誤解しがいをまねくぞ

汝なのやわしもも無駄むだこなぬ。

重々じゅうじゅう心がけいてくだれど。



正しきき宗しゆ教きやうの知ち恵えは

今いままでまで最もももつらつらきき経けい験げんと思お思もええるる事ことでも

最ももも辛かいいと思お思もええななくくななるるよよううな

知ち恵えを授あづかりりててくくわわるる。

「宗」の字は宇宙を示す意味で本質や真理を意味するのです。



信仰しんじゆうすれば心こころあたたかになる。

あたたかになれば冷たき心こころ遠とほのへ

人ひとからのわづらいもあたたかな心こころで小ちひせいなる。

信仰しんじゆうとは自分じぶんでするものであつて人に押おし付けられるものではない。

律儀りちぎに信仰しんじゆうを続ける事は自分磨じぶんみがきでもある。信仰しんじゆうしていれば回まわりから何か

といわれるものだ。

言いわれねば汝なんぢの心こころの修養しゆやうを神様かみさまが試ためさねているものと思おもつが良よい。

一ひとし心こころになつてゆけばおのずから揺ゆらがぬものとなる。

揺ゆらがぬ心こころは神様かみさまのおまことなり。

## 編集後記

今まで公開された文章で好評なものを集めてみました。教えの中での心得や神々との対話をなしてゆく中でのことなど様々です。人生に坂道や下り坂はつき物です。やがて雲は晴れ舞るよき時もあるのです。より深みを増してゆくことは人生を豊かに深くしてつむるものです。貴方により良い恵みの風が吹きますように。

かすみなしんとう  
和源神道

「心のこごたま 天の巻 心和源典」編集委員会

2015©和源神道

無言のS15戦や田舎探訪記

著者近影 和源(猪田)鷹塚





和  
源  
神  
道

